



コレクション展
えん しゅう ふ まい
遠州・不味の美意識
— 名物の茶道具 —

2013年2月23日[土]～4月7日[日]
[休館日] 月曜日



重要文化財 まるつぼちやいれ おうさか
丸壺茶入 銘 相坂
瀬戸 南北朝～室町時代 14-15世紀 根津美術館蔵



重要美術品 おおい どちやわん みよしの
大井戸茶碗 銘 三芳野
朝鮮・朝鮮時代 16世紀 根津美術館蔵

展示室 1・2 《コレクション展》遠州・不味の美意識 — 名物の茶道具 —

根津美術館では、2013年2月23日[土]から4月7日[日]までコレクション展「遠州・不味の美意識 — 名物の茶道具 —」を開催します。

小堀遠州（1579～1647）と松平不味（1751～1818）は、江戸時代を代表する大名茶人です。徳川将軍に仕えた遠州は、城や御所の造営に手腕を発揮する一方、古田織部に茶の湯を学び、三代将軍・家光の茶道指南役となります。天下が平定された江戸時代初期、茶の湯は将軍や大名に欠かせない交際儀礼となり、茶道具の需要が増加します。そこで茶入の選定や陶芸の指導に秀でた遠州は、数多くの優れた茶道具を世に送り出しました。そうした遠州の美意識により生み出された茶道具は、150年後の江戸時代後期、松江藩主・松平不味により高く評価されます。茶道具の大コレクターとして名を馳せた不味は、名物の位付けを行い、遠州が選んだ茶入を「中興名物」と定めます。また遠州、不味ともに定家様（鎌倉時代の歌人・藤原定家の書風）を得意としたことで知られます。

本展は当館の茶道具コレクションから、遠州、不味ゆかりの作品約50件を付属品にいたるまで展覧し、「綺麗さび」と称される遠州の好み、名物を選定した不味の眼、両茶人の美意識に触れていただく展覧会です。

遠州 - 小堀遠州が生みだした作品 -



こぼりえんしゅう
小堀遠州 遺愛の茶入で、端正な姿と変化に富んだ釉の景色が美しい。
遠州と親しい大徳寺の和尚・江月宗玩の添状には、遠州がこの
茶入に銘をつけるため、江月和尚を訪ねた際、『古今和歌集』の和
歌より「相坂の嵐のかぜはさむけれど ゆくへしらねばわびつつぞぬ
る」をひいて「相坂」という歌銘が付けられたと記されている。

重要文化財 丸壺茶入 銘 相坂 瀬戸 南北朝～室町時代 14-15世紀 根津美術館蔵



竹茶杓 銘 五月雨
共筒 小堀遠州作
江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

わなしにじゅうざりはないけ さいらい
輪無二重切花生 銘 再来 小堀遠州作
江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

当初は、二か所に花を入れるための切口がある二重切花生だったが、その上部が破損し、遠州はその部分を切り取り、このような姿にかえたことから「再来」と銘をつけた。遠州の創意がうかがえる作品である。

小堀遠州 (こぼりえんしゅう) 天正7年(1579)～正保4年(1647)

江戸時代初期の大名茶人。名は政一。号は宗甫、孤蓬庵。
遠江守に任ぜられたため遠州とよばれた。徳川幕府の作事奉行
を務め、建築・造園に才能を発揮した。茶道を古田織部に学ぶ。
和歌、書、茶道具の鑑定に優れ、陶芸も指導した。

不味 - 松平不味が好んだ作品 -



この作品のように、井戸茶碗の中でも大振りで丸い碗の姿をしたものは特に
おおいど
大井戸といわれ、最も格が高いとされる。松平不味は、大井戸茶碗の名品
を数点所有した。「三芳野」は、その中のひとつで、不味の所蔵品目録
「雲州蔵帳」に記されている。きりっと引き締まった高台がつき、堂々
とした姿でありながら、雅さが漂う名碗である。

重要美術品 おおいどぢゃわん みよしの
大井戸茶碗 銘 三芳野 朝鮮・朝鮮時代 16世紀 根津美術館蔵



むらくもまきえなつめ こじましっこさい
村雲蒔絵棗 小島漆壺斎作
江戸時代 19世紀 根津美術館蔵



べにし の らやわん
紅志野茶碗
桃山時代 16世紀 根津美術館蔵

松平不味 (まつだいらふまい) 寛延4年(1751)～文政元年(1818)

江戸時代後期の大名茶人。出雲(島根県)松江の藩主。名は治郷。号は不味、宗納など。藩政の改革に成功し、数多くの名物茶道具を蒐集。『古今名物類聚』や『瀬戸陶器濫觴』を発行し、名物の格付けや茶入の研究を行った。

遠州から不味へ - 遠州愛蔵の茶道具が、150年の時をへて不味の所蔵になったもの -



重要文化財 堅手茶碗 かたでちやわん 銘 長崎
朝鮮・朝鮮時代 16-17世紀 根津美術館蔵

釉や土が、磁器のように堅く焼き締まった高麗茶碗を、堅手と称している。この作品は、青味のある釉が正面の一部を残して掛かっており、その景色が見所となっている。遠州が所持し、後に不味が入手し、茶会に使用したという記録が残る。



重要美術品 獅子香炉 ししこうろ 瀬戸 室町時代 16世紀 根津美術館蔵

千利休が、狛犬の口から後頭部にかけて打ち割り、香炉にしたと伝わる作品。いわゆる見立ての茶道具である。遠州が所持した後、不味に伝来した。不味の所蔵品目録「雲州蔵帳」には「瀬戸獅子香炉」と記されている。

— 同時開催 — 《テーマ展示》

■ 展示室 5 「お雛さま - 旧竹田宮家寄贈品」

明治天皇皇后両陛下から竹田宮家に嫁がれた第6皇女常宮昌子内親王に贈られた雛人形と雛道具、約70点を展示いたします。京の公家文化と江戸の極小美の伝統が融合した近代の雛飾りをご覧ください。



めびな だいりびな
女雛 (内裏雛のうち)
明治時代 19世紀
根津美術館蔵
(竹田恒正氏寄贈)

明治21年(1888)の昌子様ご生誕に際して調製されたといわれる内裏雛は、公家社会から生まれた有職雛。髪型や衣裳には、公家の礼式が忠実に再現される



ぎっしゃ
牛車 明治時代 20世紀
根津美術館蔵(竹田恒正氏寄贈)



かいおけ
貝桶 明治時代 20世紀
根津美術館蔵(竹田恒正氏寄贈)

■ 展示室 2 「大雅と良寛の書」



てんち に だいじ りょうかん
天地二大字 良寛筆 江戸時代 19世紀 根津美術館蔵(秋山順一氏寄贈)

日本文人画の大成者として知られる池大雅(1723~76)は、じつは7歳で神童とよばれるほど、幼少期から書に堪能でした。書における線の追求がその後の画風形成にも大きく影響しています。また、曹洞宗の僧侶であった良寛(1758~1831)は、中国の草書や平安時代の仮名を学んで独特の書を展開しました。大雅と良寛というふたりの異才を中心に、儒者・国学者・僧侶など14人の書から、江戸時代後期の書壇の様相を概観します。

■ 展示室 6 「花見月の茶」



いろえおうかもんみずさし
色絵桜花文水指 肥前 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

花見月は陰暦3月の異称、開花が自然を彩る季節です。「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」と詠われた桜や、春の風物をテーマに約20点を取合せます。

[関連情報]

講演会1《遠州から不味へ 一引き継がれた茶の湯の道統》

日時 2013年3月16日〔土〕 午後2時から午後3時30分
講師 谷 晃氏（野村美術館 館長）
場所 根津美術館 講堂、定員140名

講演会2《遠州・不味と定家様》

日時 2013年3月23日〔土〕 午後2時から午後3時30分
講師 名見耶 明氏（五島美術館 学芸部長）
場所 根津美術館 講堂、定員140名

〈申し込み方法〉

往復はがきに参加を希望される「講演会1」もしくは「講演会2」、住所、氏名（返信面にも）、電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1 根津美術館「遠州と不味の美意識 講演会係」宛にお申込みください。「講演会1」は2013年3月2日〔土〕、「講演会2」は2013年3月9日〔土〕締切（当日消印有効）。参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

◆ギャラリートーク

2013年3月1日〔金〕、3月22日〔金〕

※いずれも午後1時30分より約45分間イヤホンガイドを使って行います。

※午後1時よりホールにて整理券を配布します。

※当日先着30名様に限らせていただきます。

※参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

[開催概要]

- 【展覧会名】 コレクション展「遠州・不味の美意識 一名物の茶道具―」
- 【主催】 根津美術館
- 【開館期間】 2013年2月23日〔土〕～4月7日〔日〕
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日
- 【入館料】 一般1000円 学生800円
* 20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き
* 中学生以下は無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円
* 2013年1月9日〔水〕～2月11日〔月・祝〕「新春の国宝那智瀧図」展
開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車
A5出口（階段）より徒歩8分、B4出口（階段とエスカレータ）より徒歩10分、
B3出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問合わせ】 TEL 03-3400-2536（代表）
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> （日本語・English）
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> （日本語・English）
*携帯サイトは、機種により閲覧できない画面があります。
- 【専用アプリ】 「App Store」・「Google play」から「根津美術館」を検索してダウンロード

―次回展のご案内―

コレクション展
かきつばたずびょうぶ
国宝燕子花図屏風 ―〈琳派〉の競演―

2013年4月20日〔土〕～5月19日〔日〕

〈夜間開館 4/27(土)～5/6(月・祝) 午後7時まで開館〉

尾形光琳筆「燕子花図屏風」を中心に、館蔵の琳派とその関連作品を一堂に展覧します。



国宝 燕子花図屏風（右隻） 尾形光琳筆
江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

〈リリース・広報のお問い合わせ〉

担当:羽田

TEL 03-3400-2538 広報(直) FAX03-3400-2436 MAIL: press@nezu-muse.or.jp